

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/14-8/21	8/21-8/28	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.013	不検出
		セシウム137	0.130	0.180
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.059	0.071
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	0.053
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	0.014	0.015
		セシウム137	0.180	0.220
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.044	0.050
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.040	0.062
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	0.065
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.077	0.077

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/14-8/21	8/21-8/28	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.042	0.034
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.020	0.021

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第116回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2019年8月14日~2019年8月28日)

今回も大気浮遊じんのセシウム137濃度の平均値が0.074 mBq/m³でした。健康影響の心配はありません。さてセシウムは、もともと水に溶けやすい元素なので、水溶液を作って植物を水耕栽培すると、その植物体の中にセシウムが取り込まれます。しかし、不思議に思われるでしょうが、原発事故で飛び散った放射性セシウムは、被災地域の田畑で作られる作物の大半には吸収されません。田畑以外に落ちたセシウムも土壌中にあるアルミノケイ酸などと強固に結合することで、ほとんど水に溶けなくなっていき、水と一緒に植物の中へ取り込まれなくなるからなのです。